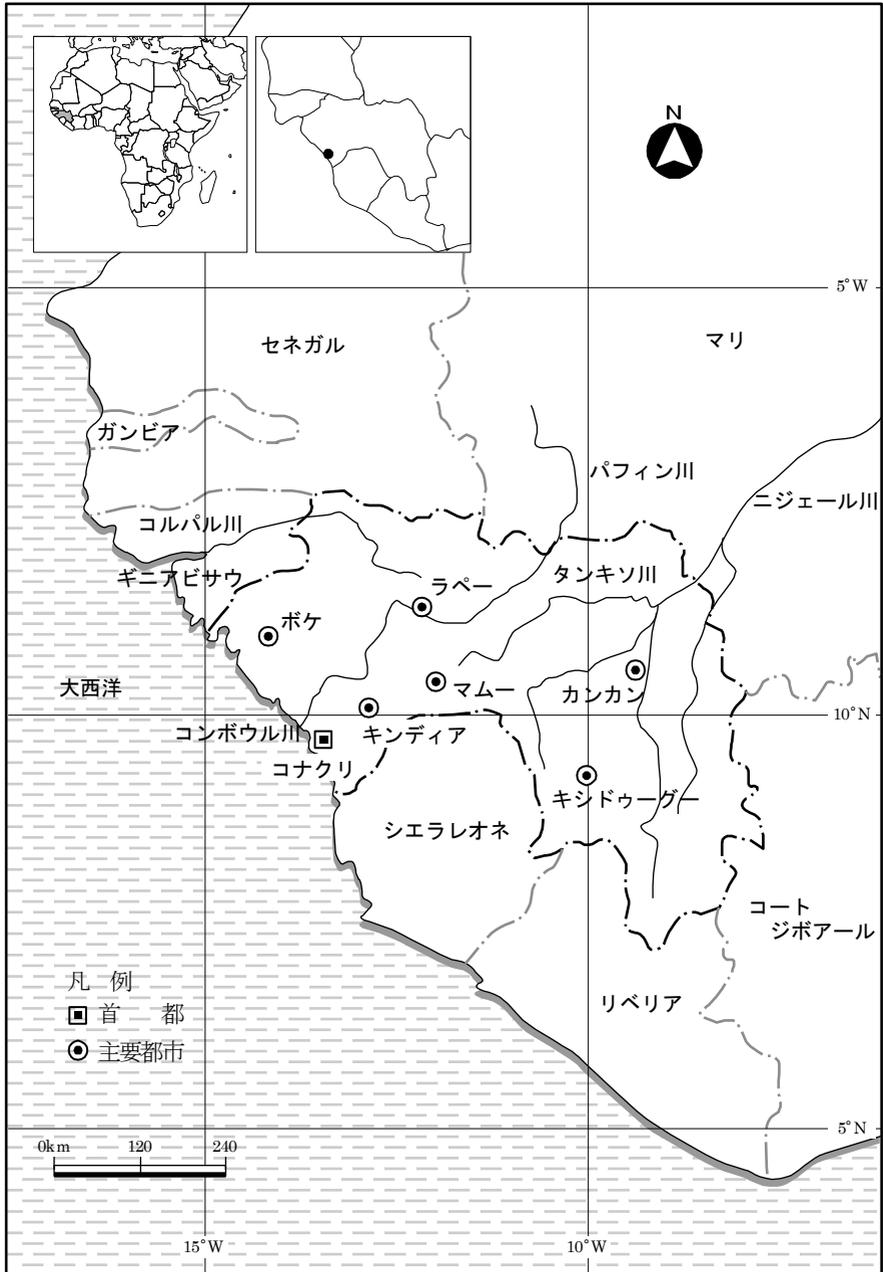


# ギニア共和国



## (一般指標)

国名 (英名)	ギニア共和国 (GUI : Republic of Guinea)		
国土面積	万 ha	2,459 (本州本島よりやや大きい)	
人口	万人	1,048人 口密度 42.6人/km <sup>2</sup> (2012年)	
首都名(英名)	コナクリ (Conakry)		
首都人口	万人	193.1 (2009年)	
主要言語	フランス語(公用語)、マリンケ語、スス語、フルベ語、キシ語、スース語		
宗教	イスラム教スンナ派85%、キリスト教8%、伝統信仰7%		
国連加盟年月	1958年12月 (1958年10月独立)		
通貨単位	ギニア・フラン 1米ドル=7030 (2013年7月)		
国民総所得: GNI	億米 <sup>ドル</sup>	40 (2010年)	
一人当りGNI	米 <sup>ドル</sup>	400 (2010年)	
主要産業	鉱業 (ボーキサイト、ダイヤモンド、金)		
日本から輸出	億円	20.7 (2010年) (鉄鋼、建設用機械、他)	
日本の輸入	億円	0.26 (2010年) (魚介類、蜜ろう)	
土地利用	万ha	耕地	354 (14.4%) (2009年現在)
		森林	658 (26.8%) (2009年現在)
		牧場・牧草地	1,070 (43.5%) (2009年現在)
度量衡	メートル法		
祝祭日	1月1日元旦、5月1日メーデー、8月15日聖母被昇天祭、10月2日独立記念日、12月25日クリスマス 移動祝日: ムハンマド誕生日、イースター、ラマダン明け、犠牲祭		
気候	西アフリカの北緯 7.5~12.5°に位置し、大西洋側沿岸部が熱帯雨林気候 Am で、内陸部が熱帯サバナ気候 Aw。雨季は 5~11 月、12~4 月が高温で乾燥が激しい。首都コナクリ (大西洋沿岸部、標高 26m、年平均気温 26.5℃、年降水量 3,622mm)。		

(森林指標)

(森林面積)

森林面積 (2010)	千 ha	6,544
森林率	%	27.0
森林変動率 (2005-2010)	%	-0.5

(森林蓄積)

森林蓄積(2010)	百万 m <sup>3</sup>	506
ha 当たり森林蓄積	m <sup>3</sup>	77

(人工林面積)

人工林面積 (2010)	千 ha	93
森林面積に対する割合	%	1.0

(森林所有者)

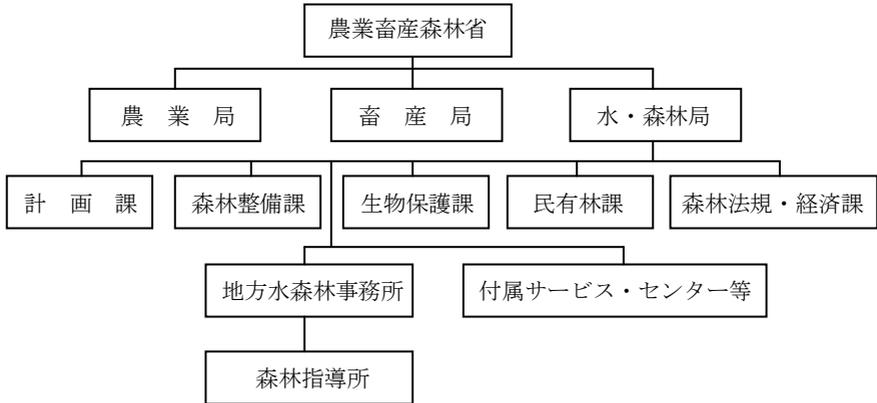
公的機関	%	99.0
民間	%	1.0

(炭素蓄積)

炭素蓄積 (2010)	百万トン	619
年平均炭素蓄積変化 (2005-2010)	千トン/年	-3

(森林・林業行政組織)

ギニアで森林行政を担うのは農業畜産森林省であり、その担当部局は水・森林局である。同局の機構は下図のとおりである。



(森林・林業政策)

1989年にギニアは熱帯行動計画と国家森林活動計画を作成した。1989年に作成され、翌年公布された「ギニア国家森林活動計画」による今後25年間の活動方針は、1990年5月24日付け第056号布告として承認された。この計画は次の6つの大きな原則に基づいている。

- ① 再生可能な天然資源である天然遺産の永続性を確保すること。
- ② 永久に保全すべき森林指定し保護すること。
- ③ 長期間にわたって最大の生産物及び機能をもたらす施業をすること。
- ④ 森林にかかる種々の開発、生産に対する調整をすること。
- ⑤ 政治、企業、協会、共同体、市民各レベルで森林政策を密接に調整すること。
- ⑥ 効果的にこの政策手段を実施すること。

森林の開発の基本方針は、農業畜産森林省の所管する農業開発計画に包含されており、①森林資源の調査、②指定林を保護するための管理の強化、③山腹斜面、盆地の整備と作業の管理、④森林局幹部をはじめとする人的能力の向上と調査研究センターの設置に重点がおかれている。

環境保護を目指した各種の活動、森林開発の関連する各種の活動については、「森林

法」と「野生生物の保護と狩猟規制に関する法」により規定されている。国家水森林局は、森林と天然資源の管理・経営に関して、地域コミュニティーの責任と積極的参画を重視している。

ギニアには多数の難民が近隣国から流入しており、環境保全上の問題ともなっており、急速な人口増加の対応とともにその対策は重要な課題となっている。

#### (森林の現況)

FRA2010によれば、ギニアの森林面積は654万haであり、国土面積に対する割合は27%である。原生林の面積は森林の1%に過ぎない。1990年から2010年までに森林面積は72万ha減少した。年平均では3.6万haであり、減少率は0.5%である。

ギニアの森林植生をみると、気候分布と強い関係がある。即ち、ギニア湾沿岸に細長くマングローブ林帯があり、降雨量の多い地帯には湿潤熱帯林が広がり、乾燥熱帯林が、Fouta Djallonの中央山塊を除くギニアの北半分を広範囲にわたって分布し、サブサハラの部分は人類の活動により樹木の点在するサバナとなっている。

#### (1) マングローブ林

*Rhizophora* 属及び *Avicennia nitida* と (クマツヅラ科) とが優占する 250km にわたるこの特別な群系は、250 千 ha の価値ある豊かな多様な生態系の森林を形成している。

#### (2) 湿潤熱帯林

この森林帯は急速に破壊されているが、熱帯多雨林、半落葉林、高海拔林に区別することができる。現在、完全に樹冠が閉鎖している森林は少なくなっていて、この森林帯の閉鎖林は70万haに過ぎないといわれている。

#### (3) 乾燥熱帯林

Fouta Djallon の中央山塊を除くギニアの北半分を広範囲にわたって占めている。開墾目的、山火事等により、ギニアの乾燥樹冠閉鎖林は、20m 前後の重要な高木の群落は少なくなり、蔓及びイネ科の草本と林床に点在するタケを伴う樹木の群落とが交互に出現する。

#### (4) サバナ

森林が破壊された結果であるサバナ地域の大部分は、草原性のサバナである。一部に、*Elaeis guineensis* (アブラヤシ、ヤシ科) 及び *Parinari* sp. (バラ科) が生存し灌木のあるサバナ、*Erythrophleum* sp. (マメ科)、*Daniellia* sp. (マメ科)、*Erythrina senegalensis* (マメ科)、*Cola cordifolia* (アオギリ科) 等のあるサバナが存在している。

ギニアの上述の森林に分布する主要な有用樹種は次の通りである。

<i>Entandrophragma</i> spp. ....	センダン科
<i>Guarea cedrata</i> (bossé) ....	センダン科
<i>Khaya senegalensis</i> .....	センダン科
<i>Lovoa trichilioides</i> (dibétou) .....	センダン科
<i>Turraeanthus africana</i> (avodiré) .....	センダン科
<i>Tarrietia utilis</i> (iangon) .....	アオギリ科
<i>Triplochiton scleroxylon</i> (samba) .....	アオギリ科
<i>Terminalia ivorensis</i> .....	シクンシ科
<i>Terminalia macroptera</i> .....	シクンシ科
<i>Terminalia superba</i> (fraké) .....	シクンシ科
<i>Antiaris welwitschii</i> (ako) .....	クワ科
<i>Chlorophora excelsa</i> (iroko) .....	クワ科
<i>Pycnanthus angolensis</i> (ilomba) .....	ニクズク科
<i>Ceiba pentandra</i> (silk-cotton) .....	パンヤ科
<i>Parinari excelsa</i> (sougué) .....	バラ科
<i>Lophira alata</i> (azobé) .....	オクナ科
<i>Nauclea diderrichii</i> (badi) .....	アカネ科
<i>Piptadeniastratum africanum</i> (dabéma) .....	マメ科
<i>Pentadesma butyracea</i> .....	オトギリソウ科

#### (人工造林)

降雨の多いギニアにおいては、既に 1913 年に産業目的で、*Gmelina arborea*、*Terminalia superba*、*T. ivorensis*、*Tectona grandis*、*Acacia auriculiformis*、*Eucalyptus* spp.、*Khaya grandifolia*、*Cedrela odorata* 及び *Pinus* spp. が造林された。一方、*Tectona grandis*、*Gmelina arborea*、*Cassia siamea*、*Anacardium excelsum* が薪炭材、小丸太、製材用材のために造林され、*Khaya* spp. *Terminalia superba*、*Chlorophora excelsa*、*Azelia* spp.、*Triplochiton scleroxylon* 等の郷土樹種も造林されている。

1965年から1971年の間に行われた *Gmelina* spp.の造林は、マッチ産業を促進した。しかし、マツ類のうち *Pinus pinaster* *P. merkusii* *P. caribaea* は導入されたが、成功したとはいえなかった。

ギニアの造林地面積は、FRA2010によると、2010年現在93千haあり、2005年から2010年の間、年平均2千haの造林がされた。

水・森林局は、フォレカリア、カンカン、ピタに中央苗畑を整備し、苗木の供給を計画しているとされているが、民間の小規模苗畑で育苗されているケースが多い。

#### (天然林施業)

ギニアの天然林は火災と農業活動により大きく減少してきており、2005年現在、全森林面積の1%に過ぎない。降雨量の多いギニアの天然林の施業は、他の西アフリカで一般に行われている天然林の種々の林分改良法が採用されているが、カメルーンで行われているような厳格な形で行われているものは少なく、天然林は無秩序な伐採が行われているのが実態である。特にマングローブ林、サバナの疎林については、特別に組織的な森林施業が行われてはいない。

WRIによれば、ギニアは3,000種の植物類、640種の鳥類、190種の哺乳類、94種の爬虫類、121種の魚類が確認されている。

#### (林産業)

木材工業用の丸太生産は、ほとんどが天然林からの小規模な伐採であり、一部に *Gmelina arborea*、*Pinus* spp.及び *Terminalia* spp.、チーク等が製材用材に供給がされている。しかしギニアの最大の木材消費は、薪炭材用である。

##### ① 薪炭材の需給

家庭用の燃料である薪炭材は国民にとり最も重要なものである。また、産業用として、魚の薫製、塩の生産にも薪は不可欠であり、住民生活に強く結びついている。

##### ② 用材生産

林業分野においては、機材不足、技術教育の不足、地方の市場における商業取引上の問題等の技術的問題がある。企業は不十分な伐採機材しか所有しておらず、伐採できる量にも限度がある。

ドイツ開発協力局によると、森林ギニア地方（ギニア国南東部）の森林の3分の

2は、2000年に、コート・ジボアールやリベリアから入って来たフランス人、イタリア人により伐採された。これらの伐採権所有は1年或いは5年という短期間のもが多い。

政府は木材販売価格を国際価額に追随することなく、省令により設定した価額での販売を行なっている。第1カテゴリーの樹種はAcajou (*Swietenia macrophylla*、センダン科)、Teack (*Tectona grandis*、クマツヅラ科)、Iroko (*Chlorophora excelsa*、クワ科) 等であり、材価はここ数年間 1m<sup>3</sup>当たり 16,000 FGS (6.4米ドル)、第2カテゴリーの樹種は Fraké (*Terminalia superba*、シクンシ科)、Framiré (*T. ivorensis*、シクンシ科) であり、材価は 1m<sup>3</sup>当たり 9,600 FGS (3.8米ドル)、第3カテゴリーの材価は 1m<sup>3</sup>当たり 5,000 FGS (2.0米ドル) と政府によって定められていた。

政府は2001年10月に発効した大統領令により、丸太の輸出を禁止し、2002年3月の大統領令で伐採権販売の中止と国内で使用される木材伐採を禁止した。

### ③ 林産加工

#### ・製材業

ギニアの2つの重要な製材工場は森林ギニアにあり、ともに老朽化している。これに加えて、数個の製材協同体が動力製材を始めている。ほとんどの製材工場は、面積2千haから50千haの間の森林コンセッションを持ち、高品質の製品は輸出用に向けられている。

製材品は、建物、内部のインテリアや外部の指物、構造、橋梁及び家具類等に使用されている。チェーンソーによる粗悪な製材品が、製材品の取引量の80%近くを占め、商人により売られている。

種々の用途の柵、小丸太、丸太、屋根葺、足場、丸木橋等は国民に生活にとり必須のものである。竹竿及びラタン（籐）もギニアの大きな都市で活用されている。現在の木材の生産と消費量に関するいかなる正確な統計も国内には存在しない。

#### ・木質森林産物 (NTFPs)

森林からの林産物は、食糧安全保証及び収入の改善に寄与する。すなわち、食糧、薬品、手工業のための原材料、飼料、及びその他（染料、ガム、タンニン等）の多目的な生産物を提供している。

原木生産量の推移と木材貿易量は以下の表のとおりである。

原木生産量の推移

単位：千 m<sup>3</sup>

年次	薪炭用	用 材				原木生産量 合計
		製材用、 単板用	パルプ用	その他	合計	
1985	9,273	180	—	348	528	9,801
1990	10,425	140	—	-140	0	10,425
1995	11,933	170	—	499	669	12,602
2000	11,444	138	—	513	651	12,095
2006	11,738	138	—	513	651	12,389
2010	11,959	138	—	513	651	12,610

注：その他は杭、マッチ、ポスト、柵 など

木材貿易量（2010）

単位：数量万 m<sup>3</sup>、金額万ドル

製 品 名	輸 入		輸 出	
	数 量	数 量	数 量	金 額
丸 太	—	—	16.7	5,561.2
製 材	—	—	0.4	265.5
合 板	—	—	0.2	154.4

出典：Mongabay, 2013, TROPICAL RAINFORESTS: Guinea Forest Information and Data

(<http://rainforests.mongabay.com/20guinea.htm>)